



PwC あらた有限責任監査法人

名古屋事務所

2021年 定期採用

PwC あらた有限責任監査法人
名古屋事務所

<https://www.pwc.com/jp/ja/careers/mid-career-a/nagoya.html>

E-mail: jp_aarata_nagoya-recruit-mbx@pwc.com



© 2021 PricewaterhouseCoopers Aarata LLC. All rights reserved.
PwC refers to the PwC network member firms and/or their specified subsidiaries in Japan, and may sometimes refer to the PwC network.
Each of such firms and subsidiaries is a separate legal entity. Please see www.pwc.com/structure for further details.



可能性に、挑もう。

あなたは、誰と、どんな未来を叶えるだろうか。

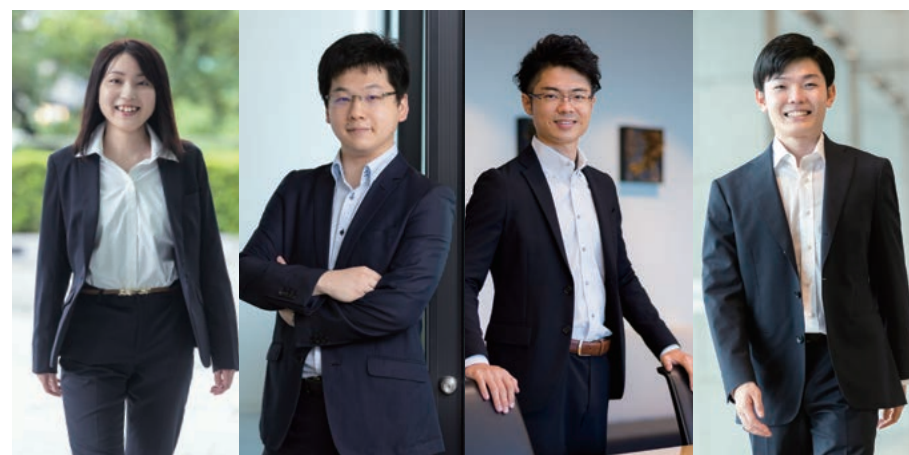
PwCあらたには、専門性を磨き続ける仲間がいる。

自分らしいキャリアを築く仲間がいる。

性別も、国籍も異なる仲間がお互いを尊重し、
個性を発揮できるフィールドがある。

私たちが何より大切にしているのは、社会に信頼を築くために、
より良い社会を創るために、変化も失敗も恐れず、あらたな可能性に挑むこと。
あなたの挑戦が、世界をもっと飛躍させていく。

PwCあらたで、想像を超えるあなたに、未来に出会おう。



INDEX

- 4 巻頭対談-1
PwCあらた名古屋事務所が描く未来
- 6 巻頭対談-2
デジタル活用で監査に新たな価値を
- 8 Professional Interview
- 10 人材育成
- 12 OEP制度
- 14 グローバル
- 16 働きやすい環境づくり
- 18 コラム

PwCあらた 名古屋事務所が描く未来



アフターコロナの世界に向けて、PwC あらた有限責任監査法人（以下、PwC あらた）名古屋事務所も大きく変わろうとしています。働く環境や新しいビジネスへの展望、そしてこれから必要とされる人財とは――。当法人の若手職員が今聞きたい「PwC あらた名古屋事務所の未来」について、パートナーが本気で答えました。

アフターコロナに向けた変革は どうあるべきか

笠松 世界的なコロナ禍となった2020年以降、私たちの働く環境も大きく変わってきています。リモートワークをはじめICT活用が進んだことにより、便利で効率的になった一方で、自らを振り返ってみればしっかりと成長できているのかという不安もあります。このような働き方の変化についてどう見えていますか。

山中 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大は、ビジネスモデルの変革や働き方の改革を急激に進めることとなりました。コロナ禍以前には、2030年までの10年間で徐々に起こるであろうと想定されていた変化が、この1年で一気に実現したとも言

われています。私たちPwCあらたの職員もまた、在宅勤務を基本とした働き方に移行しましたよね。これによって、日中の移動時間がなくなり時間をより効率的に使えるようになったことや、東京の業務を名古屋から行うことが容易になったことなど、日常業務への大きな影響を感じています。そうした一方で、人と直接会ってコミュニケーションすることの大切さや、現地もしくは現物だからこそ提供できる価値があることにも、改めて気づくこととなったと言えるでしょう。

森 そうした変化を踏まえて、これからの“ウィズコロナ”時代に向けて、私たちPwC あらたの名古屋事務所としても、どのように変わっていくべきだと考えますか。

山中 ウィズコロナの世界においては、従来の延長線で物事を考えるのではなく、“将来

どうありたいか”をまず想定し、そこから逆算した結果として、“そのために今どうあるべきか”、“何をしなければいけないのか”を考える姿勢が重要となってくるでしょう。そうした時代の変化を見越して、PwCあらた名古屋事務所としても、PwCの掲げる「Purpose（存在意義）」を実現するため、“ありたい姿”を追求しているところです。そして、その一環として現在、名古屋事務所の大規模なリノベーション（改修）も計画しています。

オフィスリノベーションで何をを目指すのか

森 オフィスのリノベーションは、日々の私たちの業務にどのような変化をもたらし、PwCあらた名古屋事務所の未来に向けてどんな影響を与えるのでしょうか。

山中 今回のリノベーションのテーマとして掲げているのが「PwC Connected Hub」です。チームとしてのつながり、また人と人のつながりを再び作り出すことができる場として、これまで私たちが大事にしてきた“WorkTogether”しながら仲間を“Care”する働き方をさらに先へと進めていきたいと考えています。

そしてリノベーション後には、監査法人だけではなく、PwCアドバイザーやPwC税理士法人のメンバーも同じオフィスで働くことになります。つまり、PwC Japanグループ（以下、PwC Japan）のメンバーファームのさまざまなバックグラウンドや高い専門性を持った人材・チームが集まる場となるわけであり、そうした人々がサービスラインの垣根を越えて協働していくことで、より価値のあるサービスを提供できるようになりたいと考えています。

私たちPwCあらた名古屋事務所では、監査はもちろんのこと、ESG、少子高齢化、デジタル化の進展による産業構造変革をはじめとするさまざまな社会課題の解決に直接的に貢献するべく、PwC Japanのあらゆるサービスチームと協働して新たなビジネスの創出などに取り組んでいます。リノベーション後のオフィスは、こうしたPwCあらた名古屋事務所としての経営戦略を実現する場であ



アソシエイト
森 拓海



パートナー
山中 鋭一

り、皆さんには監査で身に付けたスキルだけではなく、会計士としての新たなスキルを身に付けてもらえる場となることでしよう。

これからの会計士に求められる 「人材像」とは

笠松 新しいビジネスを創造するためには、どのような人材が求められるのでしょうか。また、私たち会計士の知見はどう活かされていくのでしょうか。

山中 新ビジネスの創出に限った話ではないですが、これからの時代には、現状維持ではなく、“変わっていききたい”と思える人、そして“変わっていくこと”を楽しめる人であることが大事ではないでしょうか。好奇心旺盛にさまざまなことにチャレンジして

いく姿勢は、一緒に働いているメンバーを勇気づけるだけではなく、監査で培った論理的思考能力を活かせるような多種多様な業務体験をもたらすことでしよう。そして、そのような体験こそが、さらなる自己成長につながっていくのだと確信しています。

森 監査スキルを幅広い領域の業務へと活かせるような人材になるためには、まずは何から始めるべきだと思いますか。

山中 とにかく自分のアタマで日々考えることが大切でしょうね。与えられた業務について「なぜやるのか？」を考えて、分からなければ先輩にぶつかっていく――古典的ではあるものの、とても大切な姿勢だと思います。そしてもうひとつ大事なのが「刺激」です。日頃から多様な情報に触れて、自身の知的好奇心を刺激することで、新しい発想を生み出していくのです。このような循環づくりに、変化の激しい今だからこそ、ぜひチャレンジして欲しいですね。

“将来の仲間”に向けたエール

森 今回のお話を通じて、まずは変化を楽しみ、そして新たなことへと積極的にチャレンジしていききたいという意欲が湧いてきまし



アソシエイト
笠松 聖月

た。では最後に、来年入社を目指す方々に向けたメッセージをお願いします。

山中 皆さんが入社される頃には、リノベーション後の新しい名古屋事務所へと生まれ変わっている予定ですので、ぜひ楽しみにしてください。PwCあらた名古屋事務所では、新たな業務体験の機会を提供しつつながら、皆さんの成長を全力で応援します。自身の可能性に、ぜひ一緒にチャレンジしてはありませんか。

デジタル活用で監査に新たな価値を

働き方が大きく変化し、社会のデジタル化が進むなか、これからの監査では監査人とテクノロジーとが有機的に結合した、より質の高い監査が求められていると考えています。

デジタルを活用し、私たちがどのように価値を生み出していくのか、最前線の現場でクライアントと向き合うプロフェッショナルたちが語り合いました。

法人全体の作業を効率化する “名古屋発”のデジタルツールも

——現在の仕事においてどのデジタルツールがどのように役立っていると感じていますか。

佐口 大量のデータ加工や分析を自動化するデジタルツールが導入され、監査調書の作成にかかる手間と時間が大幅に削減されると同時に監査調書もシンプルで見やすく作成できるようになりました。これまでは表計算ソフトで資料を作成していた為、数式のエラー対応に追われたり、データが蓄積されてくる

らある電子監査調書システムに分析ツールを組み合わせたもので、毎日9時と17時に各メンバーの作業のステータスを自動的に可視化できるツールです。このツールは名古屋事務所の職員が開発したデジタルツールで、法人全体で年間大賞として表彰されて、幅広く活用されるようになりました。

加藤 これまでは、メンバーの業務の進捗が数字でしか表現されていなかったのが問題を捉えるのが困難でした。しかし、このツールを使用することで視覚的、直観的に状況を捉え、チームの進捗状況を把握できるようになったため、プロジェクトマネジメントの面でも大いに助かっています。また、データ加工ツールだけでなく、PwCグローバルで開発された電子監査調書や仕訳分析ツールもとても使いやすく優れたツールですね。作業者としても管理者としてもデジタルツールの活用で圧倒的に仕事の生産性があがったと思います。

デジタルの進展で問われるのは「人」

——先のようなデジタル活用によって単純作業を中心に効率化や自動化が進んだことによって業務の質にどういった変化が表れていますか。

平岩 考える事に費やす時間を、より一層増やすことができるようになりましたね。

加藤 私も新しいツールが使えるようになったことで、今までデータの集計・加工などの単純作業に費やしていた時間を、本来会計士が取り組むべき会計処理、監査選択の検討に、より一層時間を使うことができるようになりました。

パートナー
平岩 修一



佐口 私も同感です。あと、現在リモートワークが中心となっていますが、移動の時間が減った分、ちょっとした質問や相談を含め、先輩やマネージャーの方々から個別に対応してもらえる時間が増えたように感じています。また、以前加藤さんが考案してくださった、チーム内の雑談に使えるバーチャルルームも好きでした。

加藤 オフィスでみんなと働いていた時に比べると、どうしても雑談の機会が減るので、息抜きのために考えたことでした。それはよかったです。

リモートワークに関しては、これまでクライアントやオフィスに足を運ばなければ話ができなかったのが、家にいながらウェブ会議システムでコミュニケーションできるようになったので、相当に時間を有効活用できるようになりましたね。

平岩 確かに、デジタル化が進むことで誰でもできるような作業は標準化されて自動化が進みましたね。一方で、会計士自体に求められる役割はよりレベルの高いものになっていくと考えています。基本的に監査というのは裏でコツコツと行う業務でしたが、最近では見える監査へと変わりつつあるのではないで



しょうか。さまざまなデータを流れも含めて追いかけることで初めて得られる“気づき”を、いかにクライアントに示してあげられるかが、より重要になっていくと見ています。クライアントと対話しながら業務を進める頻度も増えるでしょうね。つまり、会計士の本質的なところに業務がフォーカスしていくはずですよ。

タル研修プログラムを通して、誰もがデジタルを効果的に活用する企業文化を醸成していきたいと思っています。また、法人全体としてデジタル活動をさらに推進するために専門部署からさまざまな情報発信がされていますし、彼らと気軽にコンタクトを取ってデジタルツールの相談ができるような仕組みもできています。

佐口 デジタルツールが普及して、職員がさまざまなツールを開発していますが、中には作成過程が複雑で上手く理解できないものや作成者以外が改修できないものもありました。そんなとき実際に「自動化なんでも相談室」にコンタクトして、ツールの単純化・標準化のアドバイスをもらえたことはとても良かったです。実際にツールを使って作業する私自身が直接専門部署とやり取りできたことはとてもいい経験になりました。

クライアントへも、会計士の私たちにとても より良いものを! DX化で支える仕組みをつくりたい

——最後に、今後のさらなるデジタル化に向けての皆さんの展望を教えてください。

佐口 私たちがすぐできることは日々の業務をいかに効率化できるか考えながら仕事をすることだと思います。「あんな事ができたらいいな」と思ったらすぐに先輩や相談室などに相談して、今年は佐口オリジナルを作成してみたいです。

加藤 その通りですね。「できるかできないか」はより知識を持った人たちに相談すればいいので、まずはアンテナを張って日々の業務に励んでもらうことが大切ですね。また、私は社内外でDXを推進していく新しいタイプのリーダー“デジタルアクセラレーター”の育成プログラムに応募していて、そこでは外部の研修プログラムを利用して、AIやロボティックスを含むさまざまなデジタルツールを使った情報処理やこれに関する統計学を学んでいます。デジタルアクセラレーターとして法人内のデジタルスキルアップをけん引する存在になり、監査業務への活用はもちろん、クライアントへのDX支援につなげていきたいと思っています。

平岩 素晴らしい心掛けですね。デジタル化の進展がビジネス、あるいは皆さんのワークに及ぼすインパクトは相当なものです。また、デジタル活用が多様なニーズに応えることで、家族や趣味の時間が増えればライフの充実につながりますし、仕事以外でのさまざまな経験を通して皆さんの人生もより豊かになります。改めて認識しましたが、私たち自身、今何ができるかを考えて行動することはとても大切なことです。そのために私たちも若手職員に置いていかれないよう、日々デジタルスキルを高めていきます!

アソシエイト
佐口 真優



——ツールそのものよりも、デジタルを使いこなす“人”にかかってくる要素が大きということですね。

平岩 そのとおりです。しかし、はじめてからデジタルツールを使いこなせる人なんていません。だからこそ、職員全員が参加し、最新のデジタルツールの知見を学ぶ「デジタルブートキャンプ」をはじめPwCあらたのデジ

●監査業務

入社前から希望していた自動車メーカーの担当に 監査を通じてグループへの理解を深めることができる

私は自動車メーカーのクライアントを担当しており、主に同社における新システム移行に関する監査や内部統制監査を手掛けています。出身は岐阜県で、高校在学中に公認会計士になることを決め東京の大学在学中に公認会計士試験に合格しました。その後、地元に近いということもあり、PwCあらた名古屋事務所を志望し、入社2年目から希望していたクライアントの担当となり、同社の監査を通じてクライアントのグループについての理解を深めることができました。名古屋事務所は自動車関連のクライアントも数多く抱えており、原材料の生産から自動車が消費者の手元に届くまでのサプライチェーンの川上から川下までを網羅しているため、これらの経験は、その他のグループ

会社の監査でも大いに活かされています。仕事ではクライアントの管理職級の方々と共通の議題について議論し、ご指導いただくことも多く、恵まれた環境であると感じています。今の私にとって、自分が決めたことを内外の協力を得て、関係者と協議し一つ一つ変えていくことが一番のやりがいです。自分の考えを共有し、相手の考え・状況を熟慮し、合理的な結論に導くことは、大変ではありますが面白さを感じています。私はこれまで自動車メーカーを中心に仕事をしてきましたが、自分がやりたいと思ったことには関与することができます。任される業務内容も非常に深いため、常に前向きに理解し、挑戦による成長が求められると感じています。

マネージャー
小谷 武嗣



●アドバイザリー業務

監査業務で培った知見を アドバイザリー業務に展開

私は2012年に公認会計士試験合格後、約2年のコンサルティング会社勤務を経て、PwCあらた名古屋事務所に入社しました。入社後これまでの間に監査業務だけでなく、非監査クライアントに対するグループ会計方針書作成支援業務や、財務報告に関連する内部統制構築支援業務など、さまざまなアドバイザリー業務に従事する機会がありました。財務報告に関連する内部統制構築支援業務の一例を挙げると、ある企業から、経理業務に会計数値の誤りが生じるリスクを低減させるための内部統制を構築する上で助言してほしいという依頼がありました。私は同業他社の監査に携わった経験があった

ため、監査業務を通じて培った知見を活かして助言すべきポイントを自分の中で整理し、業務の効率化という観点も意識してクライアントに提案を行ったところ、クライアントから感謝の言葉を頂き、大きな達成感を感じることができました。入社当初、監査経験はアドバイザリー業務を行う上で大きな武器になる、と先輩から伺った事があります。私はその事を自らアドバイザリー業務に携わってみて強く実感しました。今後も引き続き、監査業務およびさまざまなアドバイザリー業務にチャレンジして実務経験を積み、クライアントが抱える課題解決に役立つ会計士として活躍していきたいと思っています。

マネージャー
木村 哲也

Professional Interview

●監査業務

幅広い業務を通して得た経験をもとに、 プロフェッショナルとしてさらなる高みへ

製薬会社の研究職、専門学校の簿記講師を経て、2015年12月にPwCあらた名古屋事務所に入社し、途中3年弱の間、東京事務所への転籍も経験しました。自動車関係以外にも、ハイジュエリーブランド、アイスクリームチェーン、医学・理化学器材など幅広い業種の監査も経験しました。興味ある分野に関するビジネスの状況把握や会計処理についてクライアントと議論を交わしたり、棚卸立会で製造過程を見ることができたりと、クライアントの商品にも詳しくなるため、クライアントビジネスに対する知見を広げることができる点がこの仕事の醍醐味であると感じています。また、さまざまな業界に日々接することにより、会社のカルチャーを取り巻く環境などを深く理解する力が身に付いたと実感しています。私は今、監査チームの現場主査という役割

を担っていますが、会社が置かれている状況等を深く理解した上で、それらが会社の業績に与える影響、不正や誤謬が生じるリスクを適切に判断し、一つ一つ丁寧に監査業務を進めていくことを心掛けています。チームの円滑な運営といった観点では、日々の会話や雰囲気を含め、スタッフが相談しやすい環境を作ることを常に考えています。また、名古屋事務所には年次に関係なく手を挙げればさまざまな業務にチャレンジできるため、私は入社1年目から企業の経理担当者相手にセミナーを実施しました。主体的に企画し、相手に分かりやすく伝える方法を模索する姿勢は、日々の監査業務でも必要とされるため、1年目にそのような経験ができたことはその後の会計士人生にも大いに役立っています。

シニアアソシエイト
金子 恵里奈



●アドバイザリー業務 (SPA)

常に最新のテクノロジーの動向に網を張り巡らしながら 監査業務やアドバイザリー業務のニーズに 柔軟に応えていきたい

PwCあらた名古屋事務所にて会計監査を経験した後、SPA（システム・プロセス・アシュアランス部）に異動し、現在はシステム監査、データを活用した監査技法の導入や不正調査業務に従事しています。入社当初からシステムや監査におけるテクノロジーの活用に関与することで知識が身に付いたと思います。部門の垣根がなく、監査業務とアドバイザリー業務を経験できることは名古屋事務所の魅力です。ビジネスが複雑化するとともに企業が導入する情報システムは増えており、今後は会計士も監査業務や

アドバイザリー業務を実施する上で情報システムに対する知見を深める必要があります。データを活用した効率的な監査の実現、データ分析を活用したアドバイザリー等を実施する上で、会計監査の経験と情報システムに対する知見は欠かせません。近い将来、AIの普及によって社会の在り方にさまざまな影響がでることが予想されており、監査においてもAI技術が応用され、監査業務の変革が起きていると言われています。今後劇的に変化していくことが想定される監査業界で、新しく出現するテクノロジーを使いこなしながら監査業務やアドバイザリー業務でクライアントのニーズの高まりに応えていきます。

マネージャー
成戸 宏隆

アソシエイト
稲垣 雄太アソシエイト
小林 達矢アソシエイト
杜下 靖朗アソシエイト
中野 将希アソシエイト
石川 由華

リモートと対面、それぞれの良さを活かした新人研修 学ぶ×体験×同期との絆づくりができる貴重な機会に

**プロとしての第一歩をしっかりフォロー、
育成する「全国合同研修」**

小林 コロナ禍の2021は、3月10日の入社式にはじまり、その後3週間に及ぶ全国合同研修がリモートで行われました。特に合同研修は、社会人として最初の滑り出しがスムーズに行くのかどうかのカギとなるため、当初は不安もありました。しかし、いざ研修が始まってみると、そうした不安は払拭されました。バーチャルクラスルームが設けられ活発に会話ができたりと、対面とまでは行かなくとも、そう大きくは変わらないという印象だったからです。むしろ、岐阜県内の自宅から参加できるというメリットを感じました。研修内容も、実務に関するものはもちろんのことPwCのカルチャーやプロとして働く際の心構えなども網羅されており、非常にためになりました。

中野 人生の一大イベントである入社式も



オンラインでのスタートだったため正直戸惑いもありました。しかし、全国合同研修が始まってみると、リモートながらグループワークなども活発に行われて、同期のメンバーともすぐに打ち解けて仲良くなり、毎朝10分間、今日は何をテーマにしようかと話し合う時間を設けたりもしました。また、グループワークでは日々意見をぶつけ合うことで、直接会っていない相手との性格が徐々に理解できるようになっていきました。こうして同期とのつながりが深まり、実務に就いた今も仕事について気軽に相談できる欠かせない存在となっています。

**監査現場での即戦力となるための
実践的な研修（大阪滞在型）**

杜下 全国合同研修の後、しっかりしたコロナ対策のもと大阪事務所で2週間、表計算ソフト等のPCスキルや、PwCの監査調査システムを用いた具体的な監査手続など、より具体的に実践的な研修を受けました。入社後対面での研修は初めてでしたが、やはり気軽に質問できることは安心感がありました。また、私は社会人経験を経て会計士試験に合格したのですが、PwCは新人研修がとてもしっかりしていて丁寧であることにも驚きました。PCスキルや実務に自信がなくても、まったく不安になる必要はないと自信をもってこれから入社するみなさんにお伝えできます。

石川 私はPCがかなり苦手だったのですが、表計算ソフト研修をはじめ、かなり基礎的なところから着実に学べるので当初の自分には少し難しい課題であっても、ためらうことなくチャレンジできるようになりました。10人の研修生に対して1人の講師がついてくれたため質問がしやすく、頻繁に声を掛けてくれるので理解もスムーズに深まっていくという点も魅力の一つだと感じております。この研修で学んだことは、現在の実務の現場でも大いに役立っています。

**デジタルツール活用をより専門的に学ぶ
デジタル研修**

稲垣 既に監査の現場に入った6月の3、4週目に行われたデジタル研修では、データ加工ツールを中心に、データ可視化ツールも含めた業務での実践的な活用方法について学びました。大阪の研修で学んだデジタルの基礎を、実務ではこうして活用するのかというのがとてもよく理解できました。前半は名古屋事務所集って行われたので、休憩の時間にお互いの今の仕事について話し合ったりなど、より緊密なコミュニケーションも取れ、お互いに積極的に教え合ったりもしました。もともと私はデジタルに関して詳しくありませんでしたが、研修を通じてさまざまなデジタルツールについて学べたので、これから仕事で活かしていく自信ができました。

職階別研修

主にアソシエイトからパートナーまでの各職階の職員を対象に、会計監査やアドバイザリー等の専門領域のみならず、「リーダーシップ」「ビジネス」「グローバル」「リレーションシップ」といった幅広い領域の研修コースを各職階に多数準備しています。PwCあらたでは研修を「継続的な成長のための気付きの場」と考えており、研修で得た知識を日々の仕事で適用し、その経験を通じてまた新たな気付きを得る「経験学習」を奨励しています。専門知識を継続して高めていくほか、「プロジェクトマネジメント研修」などチームをリードする上で欠かせないプログラムも実施しています。



シニアマネージャー 駒井 貞児

テクニカルな研修だけでなく、ソフトスキルに関する研修も充実しているのが特徴です。私自身も名古屋事務所発の「思いやり研修」を受講し、どんなときでもチームメンバーに対して思いやりをもって接することができるようになったと感じています。



アソシエイト 高地 智哉

会計基準の改定等、新たなトピックが生じた際には必ず社内研修が用意されているので、知識のアップデートに利用しています。また、無理のない範囲で受講できるよう e-learning の配信も行われており、時間を効率的に使うことができます。

デジタル研修

デジタル研修は業務効率を高め、クライアントに価値あるサービスを提供していくために全職員のデジタルスキル向上を目指したPwCあらたの取り組みです。デジタル化促進のため「デジタルチャンピオン」、「デジタルアンバサダー」*を各部門に配置し、定期的に情報交換を行うことで法人全体として共通のデジタルリテラシーを醸成しています。名古屋事務所では、より実務に即した内容として、デジタルツール導入事例の共有や、頻繁に使用するツールの機能操作しながら学ぶ等、ワークショップを定期的で開催しています。また、デジタルツールの習熟度に関するアンケートを実施し、スキルの底上げを図るプログラムも予定しています。



シニアマネージャー 倉本 明紀

名古屋事務所のデジタルチャンピオン*として、現場業務により近い距離からワークショップの実施、情報発信などの活動を行っています。若手の皆さんには是非、積極的にデジタルツールを活用して学んでいただき、強い推進力となっていただくことを期待しています。



アソシエイト 服部 雅弘

データ分析アプリを利用し、監査手続を効率化するためのツールを作成しました。作業時間が短縮され、緊急で必要となった手続きに対しても迅速に対処することができました。今後は、複数の監査目的を効率よく同時達成できるツールを開発する予定です。

*PwCの運営組織において、デジタル文化の醸成やデジタルの実践を推進する役割を担っています。「デジタルチャンピオン」は、デジタル文化の発信やデジタルアンバサダー活動の広報を行います。「デジタルアンバサダー」は、デジタルツールを習得し、現場へのデジタルツール利用の検討・導入を推進します。

アカデミー活動

企業と経済の発展に欠かせない経理に携わる人材に向けて、経理業務の学習や最新情報のキャッチアップの機会をつくるほか、互いに交流を深めていただくことを狙いとした名古屋事務所独自の活動です。中部経済の持続的発展に寄与することを目標に、中部圏の貴重な経理人材に対して学習の機会を提供しています。現在はCOVID-19感染防止のため活動が難しくなっていますが、開催内容は講師となる職員が企画し、入社1年目の職員が講師を担当することもあります。要望に応じて特定クライアントの企業内研修にプログラムの提供も行っており、充実した内容を提供できるように取り組んでいます。



シニアマネージャー 伊藤 通啓

大勢の前での講演や、講演資料作成業務を経験することで、公認会計士に不可欠な「相手に伝わるコミュニケーション」スキルを向上させることができます。また、受験生から感謝の言葉を頂くことでやりがいも感じられます。是非、興味ある方は参加してみてください。



アソシエイト 牧原 知里

新人経理向けセミナーの活動に参加したのですが、どうすれば自分の知識をより分かりやすく相手に伝えられるのか、ということに特に重きを置きました。それにより、自分の頭の中を整理できたり、説明する力が養われたりと、自身の成長につながったと感じています。

名古屋事務所での経験を活かして 可能性を大きく広げることができる

PwCあらたでは、各職員の専門領域の拡充や、中長期的なキャリアプランの実現を支援するため、さまざまな異動支援プログラムを備えています。そのひとつに、社内外の公募ポジションへ自ら挙手して異動を実現する「OEP (Open Entry Program)」があります。

名古屋事務所での経験を足掛かりに、東京や大阪、福岡の各事務所への部門・地域間異動により、新しいクライアント領域や業務にチャレンジしたり、その他にも、海外を含めたPwCネットワークや、外部関係機関等へ出向する機会が用意されています。それら多様な機会を活用しながら、みなさんの可能性を大きく広げていただきたいと思います。

ちなみに、業界団体や会計基準設定団体といった外部関係機関への出向では、業界

Open Entry Program (OEP)

法人内の部門・地域間の異動やPwCネットワーク、外部関係機関への出向を支援し、キャリアアップを図れる制度

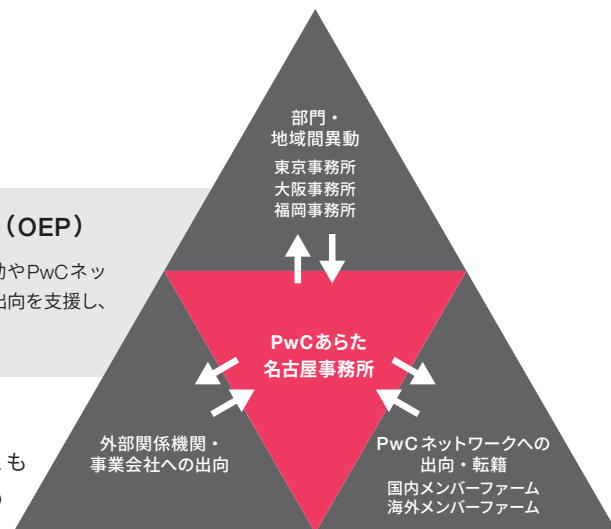
全体の活動に貢献するとともに、

会計基準設定者としての考え方を身に付け、出向か

らの帰任後に監査をはじめとする会計士業務に活かしていくことができます。

なお、このOEPでは、キャリア開発の機会・門戸を拡げていくことを目的としています。

そのため、異動希望先の部署において受入れ可能と判断すれば、現所属部署はその職員の

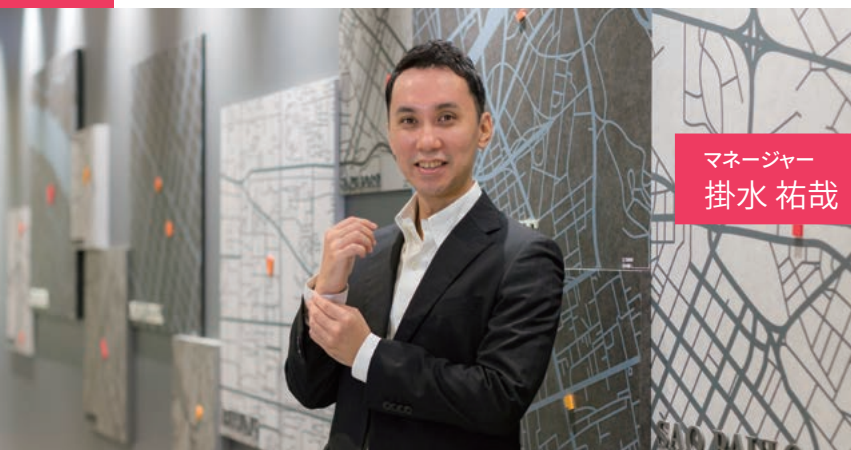


キャリアを積極的に後押しする仕組みとしていることも、その特徴のひとつです。

これまでも、このような機会を活用して、多くの職員が名古屋事務所での経験を活かし、国内外で活躍し、可能性を広げています。

外部団体出向

圧倒されても、諦めずに前に進んだ その経験を次は現場で役立てる



マネージャー
掛水 祐哉

名古屋事務所で監査業務に従事した後、2013年から約3年間、OEPを利用して企業会計基準委員会（ASBJ）に出向しました。ASBJは日本の会計基準の開発・設定を行う民間組織です。ASBJか

ら帰任し、その後2年間、アカウンティング・サポート部という会計に関する相談を受ける部門を経験し、現在は東京事務所の監査部門に所属しています。ASBJを出向先に選んだ理由は、会計基準に深

い知見を持つ方々と働くことで自分が成長できると考えたからです。出向当初はASBJ内の議論のスピードについていけず、ASBJの方々が持つ会計知識の量の迫りに圧倒されました。しかしながら、拙いながらも試行錯誤しながら文案を書き続けて何度もレビューを受け、何とか会計基準などの公表をするまでに至りました。こうした経験を通して、想像以上の成長ができたことを実感しています。帰任後は会計基準関連の研修で講師を務めたり、新たな会計基準案が公表された際にPwCあらたとしての見解を取りまとめる業務に携わっています。今後は監査現場において、クライアントが適用する会計基準に対して指導的機能を存分に発揮していきたいと思っています。

部門・地域間異動（東京）

それぞれのキャリアプランを積極的に 支援してくれる だから未来に向け挑戦できる

名古屋事務所で約6年間、自動車業界を中心とした会社の金融商品取引法監査および会社法監査に従事した後、2019年度にOEPを使用して東京事務所のMDS IPOソリューション部に異動しました。現在は株式公開（IPO）を目標とするクライアントの適切な会計処理、内部統制の整備、その他上場に向けた支援業務を行っています。

OEPを利用したのは、名古屋事務所でのIPOを目指す会社の監査に従事したことがきっかけです。2年から5年にも及ぶIPOプロジェクトの過程では、さまざまな課題、困難に直面しますが、そうした課題の

マネージャー
小野 一貴



1つ1つを解決し、会社も社員も成長することで上場することができます。監査の仕事を通じて、自分もまたそのような会社の成長により多く関与したいと感じ、異動希望を出しました。前所属部署である名古屋事務所のパートナーの方々からも、現所属のパートナーの方々にも、私のキャリアプランを真摯に受け止めていただき、成長を応援してもらっています。異動の

話はしづらいと思われるかもしれませんが、PwCではどの部署においてもスタッフのキャリアプランを応援し、支援してくれます。現在の部署で1年間業務を行い感じたことは、監査の知識・経験の重要性です。今後も監査業務にも従事しながら、監査経験に基づいたアドバイスができるIPOアドバイザーになることを目指しています。

部門・地域間異動（大阪）

名古屋事務所での経験が土台になった 他地域での経験をいつの日か名古屋に戻って活かしたい

名古屋事務所で約2年間、主に総合商社の監査業務に従事した後、OEPに応募して大阪事務所に異動しました。異動当初は、関西地区の上場企業の監査業務に従事していましたが、異動して1年経った現在は、アドバイザー業務を専門とする

チーム（CMMAS）の一員として、IFRS導入アドバイザーや新ソリューションの開発等に携わっています。

まだまだ経験も浅かったため他地域に異動することに多少不安もありましたが、名古屋事務所で大規模クライアントを担

当した経験を活かすことで、新たなチームでも活躍できました。名古屋事務所は東海地区の大規模クライアントを非常に多く担当していますので、ほとんどの新人がそういったクライアントを通じて、会計士としての土台を築くことができます。大規模クライアントでしか味わえないスケール感を新人のうちから経験できることは大変貴重ですので、是非とも法人選びの参考にして下さい。

入社する前は、自分が大阪で働くことやアドバイザー業務に携わることは全く想像していませんでしたが、入社後2年目から新しい分野の業務を経験させてもらったことで、自身の汎用性や専門性を高めることができていると感じています。

OEPを利用して挑戦することを応援してくれた名古屋事務所に恩返しするためにも、将来的には名古屋事務所に帰任し、OEPの経験を活かして東海地区の企業の発展に貢献したいと考えています。

シニアアソシエイト
渡邊 啓史

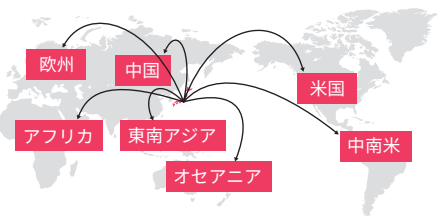


若いうちから世界を感じ、 世界への可能性を広げられる環境がここにある

PwCあらたの中でも、特に名古屋事務所らしい特徴といえば、グローバルに展開しているクライアントが多く、海外とのつながりが強いことです。名古屋で働きながらグローバル業務に携わるチャンスがたくさんあることは、名古屋事務所の大きな魅力です。海外のPwCメンバーファームへ出向した経験を持つ職員が数多く在籍しているだけでなく、海外からの出向者も複数名受け入れているため、日常的に世界を感じられる環境になっています。

また、段階的に英語業務に触れるため、英語に不安がある方でも全く心配はありません。語学習得に向けたバックアップ制度も整っています。語学学校提供プログラム受講補助や、レベルチェックテスト受験補助、Global Session、オーストラリア短期アサイン、フィリピン短期留学、イングリッシュコーチング、各種ワークショップなど、多彩な研修プログラムも用意しており、若手職員から積極的に活用しています。

幅広い海外地域とのグローバル業務



語学留学



マネージャー 木村 英美

2019年、名古屋事務所内でノミネートして頂き、フィリピンへ2週間の語学留学をしました。現地では、毎日9時半から17時までの先生とのマンツーマンレッスンに加えて、全3回のプレゼンテーション、現地のビジネスマンとのランチセッションやディナーセッションとかなり盛りだくさんでした。また語学の学習だけでなく、価値観や考え方の違いにも触れることで、コミュニケーションやオープンマインドでお互いを知る大切さを実感できました。留学前は英語を使う業務は避けたい気持ちもあったのですが、もっと話せるようになりたい、勉強を続けようという英語に対して前向きな気持ちになりました。

語学勉強の補助制度



アソシエイト 秋尾 文菜

学生時代の最後に1カ月ほどフィリピンへの留学経験があり、入社後も有給休暇を利用してカナダの語学学校に通ったりしていました。しかし自力で英語力を維持するのは難しいため、言語習得サポートを利用することにしました。このサポートコースは種類が豊富で、英会話学校への通学、オンライン英会話、リスニング重視コースなどがあります。私は無理なく継続しやすいリスニング重視コースのレッスンを受講中です。通勤中に聞き流したり、休日にはシャドーイング（音声聞いたあと、即座に復唱する勉強法）を行ったりして英語力、特にリスニング力の維持に努めています。毎月教本が送られてきて、内容が興味深く飽きないため、楽しく英語学習を続けることができています。

グローバルメンバーとの協働



アソシエイト 樫山 雄太郎

Busyraさんは私が関与するグローバル企業のチームの一人であり、主に海外子会社の監査人の管理をしています。チームでは彼女をはじめ、多くの海外メンバーと協働しています。彼女たちと一緒に仕事をする中で、わからないことをそのままにせず適時に相談をしながら、自身のアクションプランを明確にして仕事をする姿勢の大切さを学びました。私もこれまで以上に、わからないことをそのままにせず、自分がすべきことを明確にするよう留意して業務に励むようにしています。もともと海外志向はありましたが、実際に海外メンバーと仕事することで、その思いがより強くなりましたし、仕事のみならず、プライベートでも英語で海外の方とコミュニケーションをとりたいという気持ちも強くなりました。



シニアアソシエイト Busyra Niam

2020年11月から約2年間の予定でPwCインドネシアから出向してきました。名古屋事務所のメンバーと共にグローバルコーディネーターとして世界中のチームとのコミュニケーションを担当しています。名古屋事務所に来てからまだ1年も経っていませんが、前任者から聞いていたとおり、名古屋事務所のメンバーはとても親切に知識や経験を共有してくれます。コロナ環境下での業務が続いていますが、リモートワークに必要なテクノロジーと、常にサポートしてくれる仲間がいるため、それを難しいと感じることはありません。業務だけではなく、チームメンバーとの交流を深めるためのイベントなどでも、名古屋事務所の多文化コラボレーションを実感しており、自分の視野が広がっていると感じます。この名古屋事務所での経験は、私のキャリアにとって素晴らしいものになっています。

海外赴任プログラム

日米の相違点を通じて改めて実感した コミュニケーションの大切さ

これまで自動車製造業をメインにしていたのですが、アソシエイトの時代に国内で一緒に仕事をしていたPwC米国のパートナーが現地で日系企業の監査を担当することになり、監査チームに日本人のマネージャーが必要だということで、私を呼んでくれました。現地では、同社現地法人を中心とした日系クライアントのサポートや、新規クライアント獲得のための土壌づくりとして、日本人コミュニティでのネットワーキング活動も積極的に行いました。

日本との相違点で特に印象的だったのがプロジェクトマネジメントの違いやコミュ

ニケーションの頻度です。とある監査チームでは、ミーティングを行う度に、“Please over communicate”という言葉がマネージャーがよく口にしていました。膨大な作業量の中で、コミュニケーション不足による見落としなどを防ぐためにこれを徹底していたのです。このマインドセットは今後も意識して持っておきたいと感じています。

Maxさんとは赴任先のダラスで会いました。いつも優しく声を掛けてくれたり、話し相手になってくれており、私の心



Max Kuiper PwC 米国からPwCあらた名古屋事務所へ赴任（2018.6～2021.7）

原田さんとは米国で一緒に仕事をしました。名古屋事務所のメンバーとは、私がPwC米国に在籍していた時からよく仕事していましたが、名古屋事務所に出向した際は、一緒に世

界中のクライアントの支援をすることで、PwCのグローバルネットワークの強みを改めて体験し、他にはない貴重な機会を得ることができました。

短期海外出向

国際色豊かな職場に 違和感なく溶け込むことができた

2008年に入社してからこれまで、海外に駐在中もしくは駐在経験のある先輩の話や、海外のPwCのメンバーと業務上のやり取りをするうちに、海外駐在に興味を抱くようになって、GM^{*}担当のパートナーに相談していました。かねてからの希望が叶ったオーストラリアへの短期出向では監査業務に従事し、数多くの上場企業、法定監査の企業に関わることができました。私が出向したアデレード事務所には日本人は私だけでしたが、中国、マレーシア、スリランカなどからの出向者が多数いる多国籍な職場でした。

オーストラリア特有かもしれませんが、朝早くから仕事を始めて17時にはだいたいの人が帰宅します。さらに金曜日の午後となるともう少し早く帰宅しますし、仕事とプライベートのメリハリや働きやすさを追求する姿勢など、異文化で多くのことを学びました。

監査業務についてはPwCの監査ガイドダンスや電子調査システム、会計基準もIFRSと同様であることなどから今までの経験を活かすことができ、チーム内の議論にも違和感なく入っていったので、比



Lily Gui PwC 中国からPwCあらた名古屋事務所へ赴任（2018.7～2020.6）

名古屋事務所ですぐにチームの一員として温かく迎えてもらい、うれしかったです。多くの職員が海外出向を経験されているので、これから海外で活躍したい方にはとても参考に

なる職場だと思います。蘇州に赴任された岡田さんとは、再び同じチームでともに仕事ができます！

マネージャー 岡田 晃平



シニアマネージャー 原田 貴久

のよりどころのような存在でした。名古屋事務所はグローバル企業のクライアントを多数有しているため、国際会計基準や複雑な会計問題、海外の子会社監査人とのコミュニケーションなど成長につながる機会が多数あります。今後はこの経験を生かして、グローバルにクライアントをサポートできる人材になりたいと考えています。



較的スムーズに現地の業務を進めることができたという自負があります。2020年9月からは中国の蘇州に赴任しています。蘇州には昨年帰任されたLilyさんがいらっしゃるの、生活と仕事の両面でとても心強く、充実した海外赴任生活を送ることができています。日本人コーディネーターとしてクライアントやPwCの人々と一緒に仕事することで、業務の幅を広げていけていると感じています。

* Global Mobility: 世界各国のPwCオフィスに日本人プロフェッショナルが一定期間赴任する制度

充実したフォローアップ体制で 若手職員の成長を促進

PwCあらたには、それぞれの職員がワークライフバランスを充実させながら、チームとしてお互いに助け合い、そして最大限の成果を上げられるような文化が根付いています。そうした文化の醸成には、キャリアの先輩

がコーチとなり、業務上のさまざまな課題へのアドバイスや、将来のキャリアに対してフィードバックを行う人材育成の取り組みである「コーチ制度」や仕事はもちろん、何でも気軽に相談できる年次の近い先輩が

相談役となる「バディ制度」なども貢献しています。名古屋事務所では、若手職員が相談しやすく、経験ある社員・職員が見守り、育成できる関係性を構築しています。

アソシエイト 植羅 千尋

自分では思いつかない視点からアドバイスいただいたり、会計士として突き詰めて考えることや、物事の本質を見ることが大切さを教わっています。わからないことや不安な点はまずは自分で調べたり原因を考えたりしますが、何かと気に掛けてもらい、よく話を聞いてくださるので相談しやすく、勉強になります。



ディレクター 川曲 弘城

植羅さんは業務背景への理解度が深いので、次の成長につながるような問い掛けを意識しています。この調子で成長し、2～3年も経てばアドバイザー業務でもチームの中心メンバーとして活躍できると期待しています。



パートナー 氏原 亜由美

植羅さんは会計士として、とてもいい視点を持っているので、どんどん伸ばしてもらえるようサポートは惜しまないつもりです。領域を色々と広げて、ご自身の「ブランド」を創っていただきたいですね。



マネージャー 折山 裕太

指示ではなく、植羅さんの考えや分からない点をよく聞き、一緒に考えるよう心掛けています。リモート環境では、毎日30分程度はビデオ会議で業務状況の確認や、悩みごとを相談してもらう時間を設けています。

アソシエイト 佐藤 圭

不安やわからないことが生じた場合、まず自分で解決できないか考えるようにしていますが、「バディ制度」や「コーチ制度」等を通して、フォローいただいていると感じています。「わからないことがあればいつでも相談して」と言ってくれるチームの先輩方の人柄の良さなどから、とても良い環境だと日々感じています。



マネージャー 益田 敏正

抱え込まず、なんでもチームメンバーに早めに相談することを推奨しています。それがチーム全体にとっても、いい結果につながってきます。佐藤さんには、これからますます活躍していただきたいですね。



アソシエイト 松井 重人

佐藤さんとは今期、内部統制監査で同じ担当領域を複数もち、ともに成長できるチャンスに恵まれました。大変な時も支え合うことができ、また、先輩のフォロー体制も万全なので不安なく挑戦できます。



パートナー 小林 正英

アソシエイト時代は質より量です。アウトプットの量が直接的に経験につながるのでさまざまな業務にチャレンジして欲しいです。デジタルネイティブの佐藤さん世代が新しい監査の形を作っていくと期待しています。

プロフェッショナルとして 多様な人材が活躍するために

PwCあらたでは、多様な人材から選ばれる監査法人となるために、さらには能力を有する職員がプロフェッショナルとして安心して生き生きと活躍できるようにするため、さまざまな制度を整えています。子育てや介護、家庭やキャリアアップ等、個人にとっての時間を大切にしながら、それぞれが持つ高い能力を発揮してもらえるようにすることが、クライアントの課題解決に貢献すると考えています。

中でも「FWA（Flexible Work Arrangement）制度」は、個人の事情により働き方に制約がある場合でも、プロフェッショナルとしての能力や適性を生かしてもらえるよう考慮した制度です。勤務時間や日数を調整したり、3カ月の休職を可能にすることで、より柔軟な働き方を支援しています。その他にも多様な制度を用意しており、名古屋事務所でも積極的に利用できるよう奨励しています。



シニアアソシエイト 豊吉 諒子

子育てに対して理解のある環境だからできる、 仕事と育児の両立

2018年7月から産休に入り2年間の育児休職を経て、2020年9月に復職しました。夕方には保育園へお迎えに行く必要があるので、現在は15時15分までの時短勤務のFWA制度を利用しています。

はじめは、制度を利用する事でチームメンバーから迷惑に思われるのではと不安でしたが、定時外に返信したメールに対し担当マネージャーから「定時外のことは気にしないでいいよ」と言ってくれたこと、制度を利用することに対して、理解と配慮があったと感じました。

FWA制度は、会計士としての経験や知識を高め、子どもとの今しかない時間を大切にできる仕組みであると感じております。

個人の事情に応じて定時の時刻を幅広く選択することができ、キャリアアップも制限されることなく子どもと向き合う時間が確保できます。現在は、監査業務だけでなくアドバイザー業務にも従事しています。限られた時間の中でも、より経験を積んで、監査と非監査業務の両分野でステップアップしていけたらと考えています。

さまざまなケースで活用できる休暇制度

FWA 制度*	短時間勤務、短日勤務（週あたりの出勤日を3～4日に減らす）や3カ月間の休職が可能です。 *育児や介護、資格取得などにより働き方に制約がある場合も、能力・適性を生かして組織に貢献することができるように設けられた制度
有給休暇	9月1日を基準として年間20日、初年度は入社時期により按分付与されます。
リフレッシュ・ヘルスケア休暇	9月1日を基準として年間5日、初年度は入社時期により按分付与され、試用期間満了後に使用できます。
メディカル休暇	長期療養が必要な場合に、勤続年数に応じて疾病休暇が付与されます。
介護特別休暇	要介護状態にある家族の介護が必要な場合に、15日間の介護特別休暇を取得できます。
特別試験休暇	有給休暇とは別に、修了考査を受験するための特別試験休暇を取得できます。
結婚特別休暇	結婚に際して、5日間の結婚特別休暇を取得できます。
育児特別休暇	男女ともに、育児のために連続15営業日の休暇（有給）を取得できます。



シニアマネージャー 澤田 英樹

生産性を意識した業務スタイルで 子育てと仕事の両立を実現

現在、14歳と11歳になる子どもがいますが、妻がフルタイムで復職したのを受けて、2016年7月よりFWAの制度を利用して下校後の子育てをしています。当初は仕事との両立について不安もありましたが、チームメンバーの理解や協力もあって、うまく両立できていると感じています。また、作業時間が限られるため、自分の就業時間内で1日の業務を完了させるという意識を持つようになったことから、業務の生産性は高くなったと思います。仕事をする上で大事にしているのは、可能な限り周囲に私がFWA制度を利用していることを感じさせないという点です。たとえ繁忙期であっても私がボトルネックとなって業務が止まらないように、こちらからメンバーとのコミュニケーションを積極的にとり、作業の進め方の確認、疑問点の解消、緊急時の対応可能な時間帯を伝えるよう心掛けています。

今後のキャリアプランとして、子育てが一段落したら、海外進出している日系企業をサポートする現地駐在員として働きたいと考えています。

入社4年目までの若手職員に聞きました

名古屋事務所まるわかりアンケート

名古屋事務所ってどんなところ

Q. 入社前と入社後で
ギャップを感じましたか？

いいえ： **75%**

多くの若手職員が入社前のイメージ通り
働くことができています。

Q. 入社を志望した
動機は何ですか？

1位 一緒に働きたい職員がいる **28%**

2位	働きやすい環境がある	25%
3位	やりたい仕事ができる	16%
4位	自己成長できる環境がある	13%

ちなみに入社後、仕事についてからより自己成長と働き
やすい環境への意識が強くなるようです。

Q. どんな人と一緒に
仕事をしたいですか？

1位	他人を思いやれる人	63%
2位	積極的にコミュニケーションできる人	19%
3位	成長意欲の高い人	12%
4位	自分の意見を言える人	3%
4位	新しいことに チャレンジできる人	3%

CareとWork togetherが
まず大事ですね！

成長のための機会

Q. プロフェッショナルとして
成長していくための研修は
十分だと感じますか？

はい： **88%**

基本の会計監査の知識をしっかりと身に付けな
がら、コミュニケーション等のソフトスキルも
しっかり伸ばしていける環境があります。

Q. 入社後、最も身に付いた
知識・スキルは何ですか？

1位	会計監査の知識	66%
2位	コミュニケーションスキル	13%
2位	業界の知識	13%
4位	デジタルスキル	6%
5位	その他(時間管理能力...)	2%

Q. 今後、挑戦してみたいことは
何ですか？

1位	担当業界の 監査スキルを磨く	50%
2位	アドバイザー、 コンサル業務	22%
3位	担当業界以外の監査	16%
4位	グローバル業務	6%
4位	その他税務等	6%

監査業務での経験を糧に、幅広い分野に
可能性を広げていくことができます！

名古屋事務所での働き方

Q. ワークライフバランスは
両立できていますか？

はい： **88%**

大半の若手職員がワークライフバランスを両
立して働いています。

Q. 仕事以外で何の時間を
大切にされていますか？

1位	趣味・スポーツの時間	41%
2位	家族・友人との時間	31%
3位	学習の時間	16%
4位	休養の時間	12%

プライベートでもそれぞれ大切にしたい時間がありま
すもんね。皆さんと趣味の合う先輩もきつというはず。

Q. 1年間で5日以上連続休暇を
何回取得しましたか？

1位	年3回以上	52%
2位	年4回以上	41%
3位	年2回以下	7%

90%以上が年3回以上の長期休暇を
取得しています。

名古屋事務所オフィスツアー！

私たちが働く環境をご紹介します。ぜひイメージしてみてくださいね。

こちらが名古屋事務所の
受付です。大きなPwCロゴで
皆さんをお迎えします。



入社2年目の高井 優樹です。
2016年にリノベーションを行い、
「日経ニューオフィス賞」を受賞した
名古屋事務所をご紹介します。

エントランス
(受付)

ポイント それぞれが快適に仕事ができるスペースを選択できる！

COVID-19の影響により現在はリモートワークが原則となっていますが、名古屋事務所は用途に応じ
て働くスペースを選べるフリーアドレス制を採用しています。多様なワークスタイルへの対応、スタッフ
間のコラボレーションの促進など、クリエイティブな働き方を支援しています。

執務エリア①



オフィスのデザインはもちろん
テーブルやイスも機能的でお洒落。
仕事をするのが楽しくなりますよ。

執務エリア②



オープンな環境なのでお互いに
声も掛けやすく、コラボレーションも
しやすいですね。

執務エリア③



1人で集中したいという時には
ブース型の席がおすすめです。

ポイント ゲスト向け、社内向けのミーティングルームを完備！

名古屋事務所では、エントランスから直結したゲストとのミーティングルーム、
執務スペース内の社内向けミーティングルームの2種類を備えています。自宅
やクライアントオフィスをつないだリモート会議も快適です。

Internal
ミーティ
ング
ルーム



External
ミーティ
ング
ルーム



ITコミュニケーションツールを活用した
オンライン会議システムで、参加者が
どこからでも参加できるリモートワーク環境が
早くから整っていました。